



(更新：令和6年7月 計画期間：令和6年度～令和10年度)

浜通り地方流域の概要・特性

森、川、里、街、海がつながる、浜通り



阿武隈高地から海に流れる河川



先人の技術による水利用



阿武隈山系の豊かな水文化



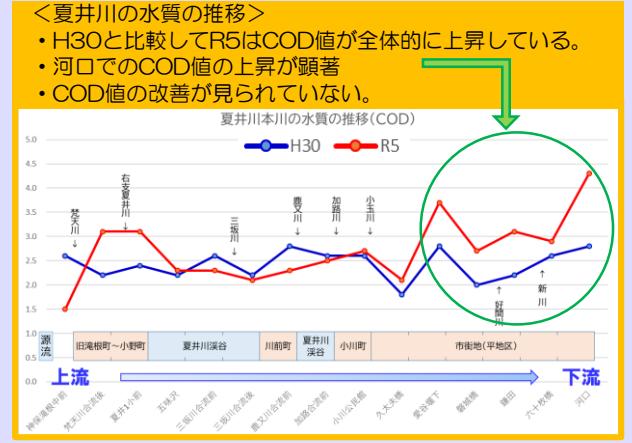
海沿いの浜通り地方は、阿武隈高地と海岸の間に谷底平野、扇状地、海岸平野が順に見られます。そこでは真野川、新田川、木戸川、夏井川など、阿武隈高地を発した比較的小規模な河川が短い距離を一気に流れ下って海に達しています。これらの河川には、森・川・海の恵みの象徴とも言えるサケやアユが遡上してきています。一方、この地方は比較的降水量が少なく、また、河川の流域も小さいことから、先人は、水不足に対応するため、相馬地方の「二宮仕法(報徳仕法)」により作られたため池や、いわき市夏井川の小川江筋等の水利施設による取水により、水を大切に利用してきました。

浜通り地方の課題と目指すべき将来像



主な取組状況や社会情勢の変化等による振り返り

重点施策 1 都市部の河川の水質改善



○上下流連携による環境保全活動

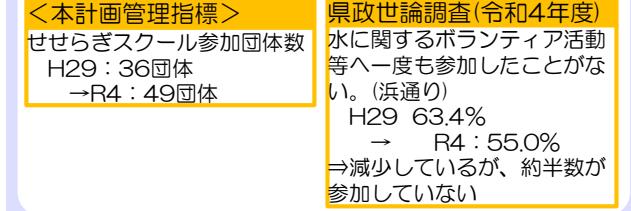
- ・流域住民による河川の清掃活動等が活発になり、浜通りでの連携事例数が増加傾向にある。
- ・一方、会員の高齢化・後継者不足により、活動が困難な団体もあり、上下流の連携が困難な流域がある。(水環境団体聞き取り)



重点施策 2 森・川・海を育む人づくり・地域づくり

○水質保全意識の醸成

- ・子供たちの水に対する意識を高めるため「せせらぎスクール」や「水の作文コンクール」などの取組を進めており、参加数は年々増加している。
- ・また、水に関するボランティア活動への参加について、一度も参加したことない人の割合は減少している。



○防災意識の啓発

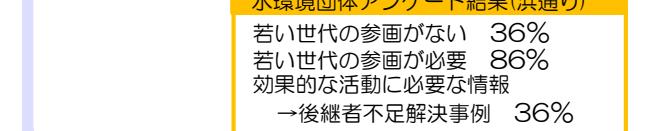
- ・豪雨から子どもを守る出前講座などの取組が進められている。
- ・また、近年、水害が頻発化・激甚化しており、水害などに対する不安や心配が大きくなっていることから、防災や減災の取組を充実していく必要がある。



重点施策 3 水環境団体の取組支援とその活性化

○水環境団体への若い世代の参画促進

- ・大学生のボランティアサークルの参画による水環境活動を実施した。
- ・コロナ禍で活動が途絶えたことから、再度連携を構築していく必要がある。

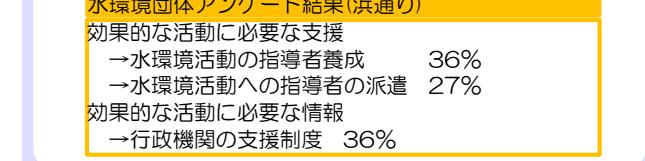


○水環境団体間の連携・交流の促進

- ・水環境団体の主体的な取組である福島県水環境団体交流会(さらさら)について、有意義な取組であることから、引き続き支援を継続していく。
- ・各地方流域水循環協議会研修会については、連携・交流の場として内容の充実を図っていく必要がある。

○水環境団体の活動支援

- ・水環境団体の活動支援として、「水との共生出前講座」による講師派遣を行った。
- ・効果的な取組であることから、支援を継続していく必要がある。



重点施策 4 浜通り地方の水文化の継承

○水にふれ、学ぶ取組の推進

- ・県民の皆さんの身近な水への関心を高めるため「ふくしまの水に触れよう」イベントを実施した。

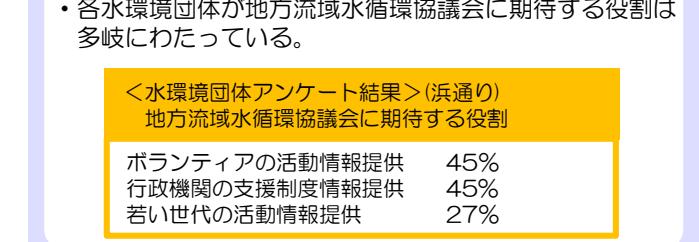
ふくしまの水に触れよう2022「水、再発見」

重点施策 5 水循環施策の窓口機能強化

○水環境団体の連携・交流の促進

- ・福島県水環境団体交流会(さらさら)の活動を支援
- ・コロナ禍において、各地方流域水循環協議会の活動は研修の開催にとどまった。

○浜通り地方流域水循環協議会による各流域が抱える課題解決への支援



重点施策1 都市部の河川の水質改善

浜通り地方では、都市部の河川において、水質の改善が必要な状況が見られているため、流域内の上流から下流までの活動団体が連携した水質改善に向けた取組や、地域と行政の協働による河川の清掃、美化活動などが行われています。これらの活動をさらに広げていくため、地域住民や水環境団体等による活動の連携や交流を支援します。

主な課題と今後の方向性

課題	方向性
河川の水質改善が必要な状況が続いているため、継続的な環境保全活動が必要である。	地域と行政の連携による河川の環境保全活動を支援します。
ゴミが絶えず、河川や海岸の環境は改善されていない状況である。	河川や海岸の環境保全に関する取組を支援します。
高齢化や後継者不足等により、水環境団体や地域住民による連携した活動が困難な流域がある。	上下流の地域住民等による活動や交流を促進するとともに、環境保全活動への参加促進のための情報発信を充実させ、取組を支援します。

具体的な取組

地域住民や水環境団体がやっている水環境活動への参加促進や活動支援などを行い、環境保全活動の輪を広げます。

地域と行政の協働による環境保全活動

「うつくしま川・サポート制度」などにより、地域と行政の協働による身近に親しめる水辺づくりを推進します。



うつくしま川・サポート制度による河川美化活動

河川や海岸の環境保全活動

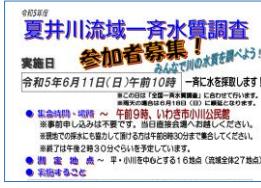
地域住民や水環境団体がやっている河川や海岸の清掃などの環境保全活動を推進します。



鳴き砂を守る会の海岸清掃活動

上下流連携による環境保全活動

上流から下流までの地域住民や活動団体が連携した環境保全活動を支援します。



夏井川流域の一斉水質調査チラシ

身近な河川の水質保全意識の醸成

流域内の上流と下流の水質の違いを理解してもらうなど、水質保全に対する意識を高める活動を支援します。



河口から源流を目指すウォーキングイベント

重点施策2 森・川・海を育む人づくり・地域づくり

浜通り地方は、森・川・海に恵まれた豊かな水環境を有していますが、令和4年度県政世論調査において、5割以上の方が「水に関するボランティア活動等へ参加したことがない」と回答するなど、地域の水環境保全活動への参加が低迷している状況にあります。このため、身近な水への関心を高めるとともに、水環境保全活動への参加を促進するとともに、地域の豊かな水資源を十分に活用しながら、地域を元気にする取組を支援します。

主な課題と今後の方向性

課題	方向性
水への関心を醸成する取組を推進してきたものの、地域の水環境保全活動への参加に結びついていない。	子どもたちの水への関心を醸成するなど、身近な環境活動への参加を促進する取組を推進します。
地域のダム等の水利施設を活用した取り組みが進められているが、県民の関心は低い。	ダム等の水利施設を生かしたイベント等を情報発信するとともに、魅力ある地域資源としてアピールし、地域づくりにつなげていきます。
身近に親しめる水辺づくりに取り組んでいるが、激甚化する自然災害によって、場所が少なくなっている。	住民が安心して近づける水辺づくりに向けた取組を支援します。
頻発化・激甚化する水害などに対する不安や心配が大きくなってきており、また、少子高齢化や過疎化など地域の防災力が低下している。	河川の流域のあらゆる関係者が協働して行う流域治水の取組を促進し、地域の防災力の向上に向けた取組を支援します。

具体的な取組

子どもたちへの環境教育を充実させるとともに、地域住民や水環境団体の連携や交流を促進するなど、健全な水循環を支える人づくり、地域づくりを支援します。

水質保全意識の醸成

水生生物による水質調査を行う「せせらぎスクール」や、「水の作文コンクール」などを通じて、子どもたちの水に対する意識を高めていきます。



せせらぎスクール

水利施設を活用した地域づくり

ダム等の水利施設を生かしたイベント等を情報発信するなどして、魅力ある地域づくりにつなげていきます。



四時ダムまつり

身近に親しめる水辺づくりの推進

川や水路が本来持っている憩いの場としての機能を確保していくため、住民が安心して近づける水辺空間づくりを推進します。



夏井川水系新川ひょうたん島の清掃活動

防災意識の啓発

河川の流域のあらゆる関係者が協働して行う流域治水の取組を促進し、地域の防災力の向上に向けた取組を支援します。



流域治水をテーマとした研修会の開催

重点施策4 浜通り地方の水文化の継承

浜通り地方では、水に関わる祭事や伝統工芸などが各地に残されておりますが、これらの「水文化」は、中山間地域の過疎化や少子高齢化の影響や、原子力発電所事故等による避難の影響などにより、伝統文化の担い手が減少し、衰退が懸念されています。このため、地域の水文化を流域の魅力として十分に活用しながら、将来に継承していく取組を支援します。

主な課題と今後の方向性

課題	方向性
過疎化や少子高齢化等により、水に関わる文化や活動の衰退が懸念される。	浜通り地方の水文化を学ぶ取組を支援します。
地域の水文化や歴史があまり知られておらず、十分に活用もなされていない。	浜通り地方の水文化を情報発信するとともに、観光や地域づくりなどに活用する取組を支援します。
流域の豊かな自然や地域資源があまり知られていない。	浜通り地方の流域の豊かな自然や地域資源などの情報を発信します。

具体的な取組

水文化を学ぶ取組への支援や水文化に関する情報発信を行うとともに、観光や地域づくりなどに活用する取組を支援します。

水文化にふれ、学ぶ取組の支援
学校や地域における水文化を学ぶ取組や、地域の水文化を学びながら行う水環境活動を支援します。



水について学ぶ子どもたち

水文化に関する情報発信

福島県HPや各種イベント等において、各地の水文化に関する情報を発信します。



沼内の水祝儀（いわき市）

重点施策5 水循環施策の窓口機能強化

浜通り地方の各流域が抱える水環境の問題は多様化、複雑化しており、流域に関わる様々な主体が課題を共有し、連携しながら一緒に取り組んでいくことが求められています。そのため、関係団体が直面している課題について知恵を出し合いながら解決していくため、浜通り地方流域水循環協議会が総合調整機能を果たします。

主な課題と今後の方向性

課題	方向性
コロナ禍で各地方流域水循環協議会の活動が研修会の開催に留まるなど連携・交流の促進が不十分であった。	研修会、意見交換会などの内容を充実していくとともに、水環境団体間の連携や交流の機会を充実していきます。
水害や新型コロナウイルスなどの影響で、地域住民や水環境団体等の取組が縮小している。	水環境団体等が行っている活動を広く情報発信を行い、その活動への参加を促進します。
地方流域水循環協議会に期待する役割として、情報提供・情報発信・資材提供・水環境活動の実施など多岐にわたっている。	水環境団体や各関係機関が実施する水循環施策に関する総合調整機能を強化します。

具体的な取組

浜通り地方流域水循環協議会が、様々な主体の連携や情報共有を図りながら、水循環に関する取組がより効果的なものとなるよう支援します。

水環境保全活動への参加促進

福島県HP等を活用し、水環境に関する活動紹介や参加者募集、水辺空間や水に関するイベント等の情報を発信します。



福島県HPによる情報発信「水に関する様々な情報」

水環境団体間の連携・交流の推進

福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



福島県水環境団体交流会